

平成 29 年度 地域貢献事業活動報告書

1 事業名称	生徒児童向けプログラミング教室指導者育成による地域再生事業
2 事業推進者等	(責任者職名・氏名) 自然・生活教育学系・教授 大森康正
3 学外の連携機関等	(連携機関等名) キャスタリア株式会社, 学校法人信学会コードアカデミー高等学校 (担当者職名・氏名) 代表取締役・山脇智志, 次世代教育開発部部长・栗林聖樹
4 事業の趣旨・目的	2020 年度から実施される初等・中等教育におけるプログラミング教育の指導者は大変不足をしている。それを解消するための指導者育成プログラムを、平成 26 年以降から共同研究(実施)で開発してきた。平成 28 年度には、その成果を本事業により、指導者育成プログラムとして新潟県、長野県、東京都他に、約 30 名に提供した。本プログラムは、モバイルラーニングとスクーリングを組み合わせた反転授業形態で実施され、地域住民による子供たちの創造的なプログラミング教育を支援すると共に、プログラミング教育の方法論を本学学生に実践的に学ぶ場を提供することを目的としている。
5 事業活動報告	平成 29 年度は、プログラミング教育指導者育成プログラムを 5 月から 8 月に実施した。上越市、長野市、東京都、愛知県、大阪市の 5 会場において、教員、社会人、主婦、学生(長野県短期大学、名古屋文理大学等(本学学生の参加は 0 人))外の総勢 34 名に対して行った。その内容は以下の通りです。 4 月 指導者育成プログラム講座の受講生を募集 5 月～8 月 モバイルラーニングによる学習 5 月 13 日 スクーリング(Ozobot および Scratch 入門) 6 月 3 日 スクーリング(子供達への対応方法、Scratch および Ozobot 模擬授業) 7 月 1 日 スクーリング(ワークショップの企画) 8 月 5 日 スクーリング(子供向けワークショップ、各会場で開催し参加した児童は 59 名) 8 月 19 日 スクーリング(振り返り活動、修了者に対して履修証明を発行) 9 月以降には、本事業の経費を使用しないで東京都および大阪市において同等の内容を実施した。
6 本事業で得られた成果	地域におけるプログラミング教育を実施する指導者の育成によって、地域活性化の一つの方法として期待されており、小学校教員、社会人、主婦、パソコン教室講師、学生など多様な職種の履修があった。これら履修者が、後に各地域や学校などにおいてプログラミング教育に関わり、実践する姿が見られた。この点が大きな成果だと言える。 また、国によって進められている初等中等教育におけるプログラミング教育が学校教育に組み込まれた際の支援組織の基盤となることが期待できることと、本事業に対して本学学生が履修者のサポート等に入ること、学生に対して実践的なプログラミング教育の場を提供することができた。さらに、本学のプログラミング教育関連の講義、演習を行う際の基礎データを得ることができた。
7 その他 (成果物等の名称)	

提出期限：平成 30 年 4 月 13 日 (金)